

中期目標	重点努力目標 (評価項目)	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題
成する 自ら学ぶ意欲と活用できる確かな学力を育	「聴く力と伝える力」の育成	B	A	○少人数指導では、生徒の多くが質問しやすい、理解しやすい、と感じており、学習効果をあげている。  ○データや画像など視覚に訴えたり、資料に表記されていないことを補足したりするなどのアドバイスが奏効している。聞く人にわかりやすく伝えることを意識した発表を行えている。	A	・生徒は「学びに向かう三箇条」を意識して楽しく意欲的に学習に取り組んでいることが、自己評価によりわかる。教職員も常にわかりやすい授業を心がけていると自己評価していることは、とてもよい。  ・少人数指導は、落ち着いた環境で授業が受けられること、教職員の目が行き届き集中しやすい。また、教職員の負担軽減にもつながり、とてもよい。 ・単元テストや少人数指導の手応えを教職員が感じられているようなので、今後とも自信をもって指導していただきたい。	・「学びに向かう三箇条」を、各担任で具体的に生徒に示し、それらに対する定着方法を行動目標として生徒指導部が提示し、取り組んでいく。  ・教師が率先して時間を守るだけでなく、生徒の自主的な声かけに対して価値づけをしていく。関わり合いは、朝の時間に行っているコミケや各授業での活動を通して、更なる定着を図る。
	学ぶ意欲の向上	A					
		A					
		A					
心を醸成する 自尊心と利他心を育み、しなやかでおおらかな	心を耕す教育の推進	A	A	○生徒たちが話しやすくなるように、LTノートの朱書きや、面談週間を大切にしている。また、日頃からなにげない会話を心がけている。  ○実生活における様々なSNSトラブルを回避する方法など、時代の流れや傾向を捉え、情報モラルを学ぶ機会を増やす試みをしている。  ▲生活三つの心づかひの大切さについて、適宜確認したい。	A	・生徒と教職員ともに他を思いやる気持ちを大切にしていることがよくわかる。 ・時間を守っての行動や身のまわりの整頓といった「基本的な生活習慣」の自己評価は今一歩である。具体的な手だてを考え実践していただきたい。  ・個に寄り添う教育の場としてグリーンルームの活用が奏効しており、とてもよい。  ・スマホ講座の内容は、秘匿性の高いテレグラムやシグナルで指示され、闇バイトへつながってしまう等、日々変化する時代の特性に合わせたものにしていただきたい。	・生活三つの心づかひ(基本的な生活習慣)が、日常生活のあたりまえになるまで、全教職員が自ら率先して範を示す。そして、どの生徒にも場に応じた身の振り方が意識できるように適切な声をかけていく。  ・スマホ教室やメディアリテラシー教育など SNS 情報について専門的に学ぶ機会を複数回つくる。
	生活三つの心づかひの常態化	B					
	個に寄り添う教育の推進	A					
安全安心や危機管理意識を高める 教育活動を展開する。	危険対応意識や対応力育成	B	B	○P 役員の協力を得て、1月に不審者対策の訓練を行った。今回浮上した様々な課題を検討し今後に生かしたい。  ▲9月の避難訓練を教室で安全指導を行ったことで、実効性の高さにつながらなかったが、丁寧な指導は生徒の意識を高めた。	B	・不審者対策は、生徒と教職員の安全確保が第一であり、警察への連絡方法を皆が統一して保有することが大切。 ・不審者対策を含む避難訓練は、形態を変え定期的の実施し、生徒・教職員の意識を高めてほしい。また、安心・安全指導は、学校外の生活についても対応していただきたい。  ・小学校区の防災訓練には、安否(無事なら黄色いタオルを玄関先に掲げる)確認から中学生に参加できるような方法を考えたい。	・不審者対策として、本年度とは違う状況設定で避難訓練を行う。  ・各小学校区の防災訓練に参加するよう、声をかける。  ・警察や外部機関との連携など、専門家の意見を取り入れる。
		B					
専門性が高く、組織として機能する 教職員集団を育てる	「授業で勝負」する教師集団	A	A	○教科等でまとまる4~5人グループでマイスターを中心に授業案を検討した。生徒と教師の発言をつぶさに記録しながら観察するなど、どの職員も授業に向き合い、研鑽に励んだ。  ▲働き方改革下での研修を推進してきた。今後もスケジュール感をもって歩み続け、豊城職員ファミリーの力量を高めていきたい。	A	・先生一人一人が自信をもって生徒や保護者に対応できるよう、自己研鑽に励んでいただきたい。  ・「今日はこんな授業をしたよ」という話を子どもから聞くとうれしく思う。授業準備は大変だと思うが、今後も先生の気持ちのこもった授業を期待したい。  ・タブレットや機器を活用しての授業が常態化していて、たいへんよい傾向である。より成果が上がる学習形態や指導方法を工夫し、指導力の向上を図っていただきたい。  ・常勤非常勤の先生方を含めた豊城職員ファミリーを作り上げていただきたい。	・令和7年度の研究発表に向けて、働き方改革を念頭に置き、各自の業務に優先順位をつけ、効率的に取り組むように指示する。  また、教員研修を更に充実する。授業内容はもちろんのこと、生徒が自分の学習を振り返るための支援や関わり合いが活発にできるような方策を提示していく。
	自発的な学びを支える道具となるように、タブレット活用を常態化する。	A					
	教職員の業務の磨き	B					

【自己評価】 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない

【総合評価】 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価

【関係者評価】 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない